

2030年CO₂削減目標達成に取り組む日本の鉄鋼業

新しい掲載記事ありませんが、インターネットの参考ニュース

日本の鉄鋼業は 2030年CO₂削減目標達成のため、大手高炉メーカーはそろって高炉を休止して、大型電気炉操業への設備投資・操業アプローチに舵を切る。

1. JFEHD 福山の高炉1基を完全休止 倉敷は電炉転換、生産スリム化

国内の粗鋼生産能力は24年度の年2600万トンから27年度に2100万トンに減らす。

同製鉄所倉敷地区（岡山県）の第2高炉も世界最大規模の電炉への転換のため28年度に完全休止し、生産体制は高炉7基から高炉5基と電炉1基体制になる。

【速報】倉敷市・水島コンビナートの第2高炉 世界最大規模の電気炉に転換へ JFEスチール【岡山】(25/04/10 12:10)

youtube : <https://www.youtube.com/watch?v=U2XrbpntOg>

2. 日本製鉄

◎瀬戸内製鉄所製鋼工場 電気炉粗鋼生産量100万トン達成 2025/03/28

日本製鉄株式会社 瀬戸内製鉄所の広畑地区新設の電気炉で操業開始した2022年10月以降、2年4カ月の時を経て、2025年2月6日に電気炉粗鋼生産量100万トンを達成

◎「次世代電気炉の開発」／小型試験炉が完成／高級鋼製造に向け実証

大型電気炉での高級鋼製造技術の確立を狙い、波崎研究開発センター構内に建設していた小型の試験電気炉が完成。炉容量は1チャージ（回）当たり10トンで、昨年12月から運用を開始した。同センターでは還元鉄を造る「試験シャフト炉」の建設も進めており、2025年度内に稼働させる。

日本鉄鋼新聞 <https://www.japanmetaldaily.com/articles/-/234909>